



# 県内主要産業の動向

2017年12月・2018年1月

◎順調 ○まずまず ◐やや低調 ●不調

業種	景況			コメント
	17年11月	17年12月	先行き	
金属洋食器	●	●	→	受注は、春の需要期に向けた動きが鈍く、前年を下回る水準。在庫は、半製品が積み上がるも職人不足で工程が進まず、完成品が不足気味。そうした中、飲食店で洋食器を再研磨するケースが増加している。足下の商談会では、オリンピックを前に集客が良好で賑わいもみられた。
金属 ハウスウェア	●	●	↗	受注は持ち直し基調。厨房関連製品は、食品トレーなどが堅調。扱い易い軽量のチタン製品にも需要がみられる。家庭用品は、タンブラーなどノベルティ関連や、コーヒーポットなどの輸出製品に動き。年末には、ふるさと納税の返礼品関連に駆け込み需要がみられた。
作業工具	◐	◐	→	国内販売は、建築関連工具を中心に堅調を維持。建設現場等での人手不足から手動の一般レンチ類は低調ながら、電動の先端工具類は需要が続く。輸出は、東南アジア向けを中心に堅調。鋼材価格、運賃値上がり採算面の懸念材料であり、価格への転嫁を検討する業者もみられる。
電子部品 ・デバイス	○	○	→	受注は好調に推移。半導体関連では、半導体素材の受注が引き続き堅調。電子部品関連では、半導体製造装置向けは好調であるが、携帯端末向けで需要にやや一服感がみられる。製品分野の広がりを背景に先行きの受注は明るい見通したが、足下の円高が懸念材料となっている。
鋳物	○	○	→	受注は引き続き好調。環境規制による生産シフトで中国向けだけでなく、北米・東南アジアからも引き合いが来ている。品目別では、自動車・半導体関連だけでなく、首都圏向けの建築関連にも動きがある。そうした中、労務費や材料費上昇分の価格転嫁が大きな課題となっている。
金型	○	○	→	受注は堅調を維持。建築金物はオリンピック需要を背景に首都圏向け、自動車関連は北米向けを中心に堅調。一方で、季節商品の暖房機器には一服感がみられる。そうした中、ステンレスなどの原材料価格や労務費の上昇による収益性の低下で苦慮している先もみられる。
一般機械	○	○	↗	内需・外需とも自動車や航空機、半導体関連が引き続き好調。特に外需については、中国向け設備投資が全体を牽引、アジア向けのIT関連も伸びた。また、北米向け自動車も底堅く推移している。省人化に伴う投資需要が高まっており、当面は高水準の受注が続く見通し。



業種	景況			コメント
	17年11月	17年12月	先行き	
絹織物	●	●	→	生産は低調。高価格帯を中心に小売店の販売が振るわない状況。催事も回数が少なく盛り上がりには欠けた。そうした中、中国での生糸価格高騰を背景に、原材料価格が上昇し、収益性が悪化している。一部では、今年の成人式での混乱によって振り袖需要の落ち込みを懸念する声が聞かれた。
合織織物	●	●	→	春物生産期。受注は前年を下回る。労力を要する小ロット・短納期の受注の割合が依然として高い。また、主要な原材料のシルク原糸が品薄で価格が高騰し、生産やコストの面で支障が出ている。そうした中、最終工程を行う加工業者の廃業が産地の受注状況に影響を及ぼしている。
ニット	●	●	→	春物生産期。店頭の小物商戦が堅調でアパレル側が積極スタンスに転じており春物受注は前年実績を上回る見通し。一方、産地では受注に対する態勢が整わず、生産はタイトな状況。そうした中、五泉産地ではニット製ペンケースなど小物の開発にも注力し、産地ブランドのPRに努めている。
木工家具	●	●	→	業務用は、店舗関連の受注は少なく、商業施設等からの年末商戦向け受注も低調。運賃値上がり、物不足から来る資材値上がり採算面の懸念材料になっている。家庭用は、受注に依然苦慮する状況。売上確保のため当初設定額を大幅に下回る金額で販売せざるを得ない事例も見受けられる。
清酒	●	●	→	12月の出荷量は、県内向け・県外向けとも前年を下回った。最需要期であったが、飲食店向け・スーパー向けとも伸び悩んだ。酒類別では、吟醸酒・普通酒が底堅かった一方、純米酒・本醸造酒が不振。足下では、1月の寒波の影響による出荷の落ち込みが懸念されている。
米菓	◐	◐	→	12月の売上は各メーカーまだら模様だったものの、総じて前年並みを確保。最需要期入りしたこともあり、定番商品などが堅調で、生産は盛り上がりを見せた。足下でも、引き続き前年並みで推移。そうした中、段ボール等のコストが上昇しており、今後の収益圧迫の懸念材料に。
建設	◐	◐	→	公共工事は、持ち直し基調にあったが、足下で国や県の発注減を受けて落ち込みがみられる。前年の補正予算執行の反動減も要因。民間工事は、小規模工事主体であるが底堅く推移している。住宅建設は、相続対策の一巡により貸家が落ち込み、持家も弱含みで推移している。
大型小売店	◐	◐	→	12月の売上は総じて前年を上回った。冬物衣料や時計などの高額品、年末年始用の高級おせちや食材などが堅調だった。1月は初売りが好調だったものの、寒波による物流停滞などから、売上は前年を下回って推移。一部に、天候不順が続くことによる売上減少を懸念する声も。